

戦時下のウクライナの子どもの達の絵画展（2025年1月13日～2月4日）

岐阜県山県市立伊自良中学校生徒達の感想文（抜粋）

- 1) 絵を見て、伝えたい事を絵で伝えていて、変化した風景やつらい思いが良く伝わった。言葉ではなく絵で伝える事で、国が違ってもしっかり合えると思った。
- 2) 戦争がすごく怖い事がとても良く伝わってきた。3年も続いたから何時死んでもおかしくない状態だけど、生き残って絵を画いて私達に戦争の怖さを教えてもらい、再び戦争の恐ろしさを知りました。これからは戦争が続くかもしれないけど、この絵を画いた子ども達、その家族たちには戦争が終わるまで生きて欲しい。
- 3) 私は、戦時下のウクライナの子どもの作品を見て、今、自分たちが書いている間にも、ずっと続いていると思うと恐ろしい気持ちになります。6歳の子から16歳の子まで、見て現状が良く伝わって、心が痛くなり悲しいです。少しでも早く戦争が終わって、ウクライナの子ども達やお母さん、お父さん、もしくはお腹の中に赤ちゃんがいる人も、平和になって幸せに暮らして欲しいです。私たちが今、何をしたら、どうしたら、もっと早く、少しでも幸せになるのか。とても深く考える事が出来た時間だったと思います。何かお手伝い出来るならしたいです。
- 4) ウクライナの子たちは、日本の私たちに実際に起こっている事や、戦争によってのつらさ等を伝えたいのだと絵を見て思いました。また、ウクライナの子たちは皆共通して、私たちが当たり前のように平和に過ごしているのは感謝すべき事なんだ、と考えている事が分かりました。辛い現場や状況を絵などにし、私たちに伝えるという事をしてきているウクライナの子たちに感動しました。
- 5) ウクライナの子の描いた作品を見て、実際に起こっている惨状を真に受け止めて、ニュースだけでは分からない事も知る事が出来た。僕たちに教えるために、危ない環境なのに絵を画いてくれて本当に有難う。本当に、本当に頑張ってください。無責任な言葉かもしれませんが、許して下さい。
- 6) 長期にわたって行われてきた戦争で、教育もまともに受けられない人が多くいる事は知っていたけれど、今回、絵を見てより、今、平和に過ごせている有難みが分かりました。これからは、今を平和に過ごせている事に感謝して毎日を大切に生きていきたいです。
- 7) 絵を見せて頂いて、スニジャーナさんの「終わらない景色」を見させていただき、とても心うたれました。私達も昔に戦争で多くの方が亡くなりました。なので、苦しさは少しわかる気がします。私達はそちらに行って支えてあげられませんが、心の中でずっと応援していきます。私は今、中学3年生です。勉強を頑張らないといけないのですが、今まであまり出来ていませんでした。でも、皆さんの思いのこもった作品を見たら、私も頑張らなければ、と思いました。きっと光が照らす明るい未来は来ます！ お互いに頑張りましょう！！
- 8) 「戦時下のウクライナの子どもの作品展」を見学し、私は衝撃だった。今の私は、戦時下の想像が出来ない、縁の遠いものだと考えていた。今日の展示で、私と同じくらいの人や、私よりも若い人の絵を持って、ウクライナの人々達はこれを現実で見ているのだと思うと心苦しくなった。今日見たことを忘れないようにしたい。
- 9) 作品を見て感じた事は「戦争はやはり怖いな」という事です。作品は兵器について描かれているのも多くて、「人類はなぜ人を殺す道具を作ってしまったのだろう」と思いました。敵（ロシア）側の視点の作品があって、ウクライナ兵を狙っている、という場面だったけ

ど、その兵が一般人（家族？）と抱き合っている、という作品で、こういうのを本当に見たロシア兵は撃てないんだらうな、と思いました。その作品を見て「兵も人なんだ」という気持ちがより一層あふれました。早くこんな戦争は終わって欲しいと思いました。

- 10) 戦時下のウクライナの子どもの作品を見て、ポジティブ絵が多いな、と思いました。どの人もウクライナが勝利することを信じ切っていて、その強い気持ちは尊敬できるな、と思います。僕らよりはるかに苦しい生活のはずなのに、諦めず一生懸命生きていて、僕も姿を見習いたいです。これから僕は、今便利な生活が出来ている事に感謝していきたいし、何か機会があったら支援を少しでも出来たらな、と思います。
- 11) ウクライナの子ども達が描いた絵と、その下にあったメッセージを見て、年齢が同じくらいだと思えないくらい深い内容だな、と思いました。ウクライナの子たちの絵やメッセージから、私が今まで経験したことのないような苦しみがにじみ出ている、見ているだけで辛くなりました。メッセージを読んでいると、一日で当たり前が崩れた事が描いている子が多かったです。私は今の幸せな生活に満足することなく、色々悩んでいた事が恥ずかしくなりました。これからは一日、一日をもっと大切に、当たり前だと思わずに過ごしていきたいです。